

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月8日現在

機関番号：33910

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22730281

研究課題名（和文）戦後復興期イギリスの「民主的」変革と都市計画に関する実証研究

研究課題名（英文）Democratic Reform and Town Planning in the British post-war Reconstruction

研究代表者

本内 直樹（MOTOUCHI NAOKI）

中部大学・人文学部・准教授

研究者番号：10454365

研究成果の概要（和文）：

本研究は、戦後復興期イギリスの都市計画の「民主的」計画構想およびその実現化への制約条件を検出し、1940年代という「民主的」変革が試みられたイギリス戦後復興の歴史的特質を探るものである。2度の渡英調査を行い、中央政府・地方レベルでの関連一次史料を収集した。具体的には、イングランド北東部の製鉄工業都市ミドルズバラ市を事例に、計画者らがどの程度、市民の要望を包摂していったのかを検証した。結果、戦時社会調査機関を中心に社会学者と都市計画家の協働と科学的アプローチに基づく社会調査の実践により、住民の要望や都市問題が詳細に把握され、戦後ミドルズバラ市再建計画案に反映されていたことを明らかにできた。このことは従来、社会のなかで無視されてきた労働者階級や主婦層の声を掬い取り、これまでの少数の計画者による秘密裡にすすめられる計画立案過程とは異なり、より開かれたものへと計画思想のパラダイム・チェンジがみられた。このことは戦後の「より公平な社会」の建設に活かすことが強く意識された1940年代のイギリス戦後復興期の「民主的」変革の一端を示すものといえよう。

研究成果の概要（英文）：

This research is to trace in detail how the dreams of a better urban future fared in the harsh reality of the post-war Britain. It deals with the planners themselves and their ideas, but places planning in context, and so also discuss how other important players -politicians, vested interests and the public at large-participated in the rebuilding process.

The wartime Social Survey, set up by the Ministry of Information, was a government research institute tasked with investigating people's everyday lives, their feelings about community, and their experience of economic and social problems. In 1944, a British urban sociologist, conducted a social survey of Middlesbrough to aid post-war reconstruction.

In this research, I examine the Middlesbrough survey and trace, first, ordinary peoples' interactions with their immediate neighbours and friends; second, wider patterns of social relations, particularly those which structured leisure and class interactions; and, third, the differences that were evident between those who lived in the better off suburbs, council estates, and the poorest areas of the town. Finally, I evaluate the contribution that British urban sociology made to post-war reconstruction in terms of 'democratic planning'.

As the result, I gave a paper at the international conference 'Blitz and its Legacy' at the University of Westminster in London in 2010, and published two articles in academic journals between 2010 and 2011.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：イギリス、戦後復興、都市計画、民主的計画、社会調査、製鉄工業都市、ミドルズバラ市

1. 研究開始当初の背景

従来、イギリス戦後史研究は、福祉国家の研究(思想面・政策内容・政策意義)に代表されてきたと言える。本研究は、イギリス戦後史に新たな研究視角を提示しようとする問題意識に基づき、戦後の新社会秩序の形成へ向けた戦後改革の「変革方法」に分析の軸を置く。具体的には都市計画の領域に着目し、社会再建の縮図とも言える都市の再建計画・コミュニティ計画の立案過程や、その実現化に向けた動きに対する現実的制約条件などを検証しようとするものである。究極的にはイギリス戦後改革の「特質」や戦後復興の歴史的条件を明確化することを念頭においている。近年、戦後イギリス都市再建史研究は、イギリスの歴史学界はもちろんのこと、日本の歴史学の分野においても都市史研究や都市計画史研究との領域をまたぎながらも進展を見せつつある。筆者は、こうした既往研究の蓄積を踏まえた結果、これまで研究されてこなかったいわゆる戦災をほとんど被らなかつた地方都市や工業都市を事例にとり、むしろ、そうした都市までもがなぜ、戦後再建期に計画化の動きを見せたのか、特にイングランド北東部に位置する製鉄工業都市ミドルズバラ市は、都市農村計画省、戦時社会調査機関、著名な社会学者や「民主的計画」構想をいち早く唱導していた都市計画家らの強い関心を集めつつ、市民を可能な限り計画立案過程に包摂していった都市再建計画で知られている。本研究は、この事例に着目し、第二次大戦期・戦後復興期の都市再建史の実態を一次史料に即して明らかにする問題意識が前提となっている。

2. 研究の目的

本研究は、抜本的変革が試みられた第二次世界大戦期と戦後復興期イギリスにおける「民主的変革」の構想と手段、およびその限界を地方工業都市の都市計画の事例研究から、イギリス戦後復興の歴史的性質を明らかにするものである。

- (1) 戦後に向けた戦時期計画立案者の計画思想の「パラダイム・チェンジ」
- (2) 社会的公正の実現へ向けた「民主的計画」構想
- (3) 計画立案と計画過程への市民の包摂
- (4) 戦後の計画実現度の相対的評価、といった新しい視軸にもとづき、具体的には北イングランド製鉄工業都市ミドルズバラ市を事例に、計画化をめぐる計画者・市民・地方レベルでの政治家の姿勢と相互関連性を一次資料にもとづき明らかにする。

従来、イギリス戦後史研究は、福祉国家の研究(思想面・政策内容・政策意義)に代表されてきたと言えようが、本研究は、イギリス戦後史に新たな研究視角を提示しようとする問題意識に基づき、戦後の新社会秩序の形成へ向けた戦後改革の「変革方法」に分析の軸を置く。具体的には都市計画の領域に着目し、社会再建の縮図とも言える都市の再建計画・コミュニティ計画の立案過程や実現化に向けた動きに対する現実的制約条件などを検証しようとするものである。究極的にはイギリス戦後改革の「特質」や戦後復興の歴史的条件を明確化することを目的とする。

近年、戦後イギリス都市再建史研究は、イギリスの歴史学界はもちろんのこと、

日本の歴史学の分野においても都市史研究や都市計画史研究との領域をまたぎながらも進展を見せつつある。筆者は、こうした既往研究の蓄積を踏まえた結果、これまで研究されてこなかったいわゆる戦災をほとんど被らなかつた地方都市や工業都市を事例にとり、むしろ、そうした都市までもがなぜ、戦後再建期に計画化の動きを見せたのか、特にイングランド北東部に位置するミドルズバラ市は、都市農村計画省、戦時社会調査機関、著名な社会学者や「民主的計画」構想をいち早く唱導していた都市計画家らの強い関心を集めつつ、市民を可能な限り計画立案過程に包摂していったことで知られているが、本研究は、この事例を取り上げ、都市再建史の実態を一次史料に即して明らかにすることが目的である。

3. 研究の方法

本研究は1940年代のイギリス都市計画に関連する資料の収集が必須となる。そこでまずは

(1) 渡英前に、あらかじめ現地アーキビスト(国立公文書館はもちろん地方公文書館・地方図書館も含めて)とコンタクトをとり、資料の存否や関連一次史料の所在についての確認作業を行った。

(2) 2010年夏にロンドンとミドルズバラ市を、2011年冬、ロンドンに資料調査へ出向いた。そこで都市農村計画省関連資料、戦時社会調査資料、当時の都市計画専門雑誌、地方新聞や都市計画家の個人資料など豊富な一次史料をある程度収集することができた。

(3) その後、資料の資料解読、史料批判、論文骨子の作成を行った。

(4) 2010年にはロンドンにて学会発表の場で報告し、現地研究者(歴史家、都市計画研究者)から有益なアドバイスを頂いた。

(5) そうした知見と既往研究の整理を踏まえ、一次史料にそくして都市計画家の民主的計画構想の中身、中央政府関係省の意図、地方政治家の果たした役割、市民の反応といった都市計画の社会史に焦点を置いたアプローチで、従来あまり研究されてこなかった計画と人々の関係性を明るみにした。

4. 研究成果

本研究は、第二次世界大戦期および戦後復興期イギリスの「民主的」改革のプロセスとその実態を把握するために戦後再建政策のひとつであった都市計画

の展開を分析する実証的研究である。具体的には、イングランド北東部に位置する製鉄工業都市ミドルズバラ市を事例に、都市再建計画の立案過程、その後の実現過程において市民の要望がどの程度包摂されていったのか検証した。1945年、戦時政府の社会調査機関、社会学者による科学的アプローチを援用する社会調査の実践により住民の要望や都市問題が詳細に把握され、これが都市計画家に利用されることとなり、戦後再建計画案に反映されたことが明らかになった。このことは従来無視されてきた労働者や女性の声を戦後の「より公平な社会」の建設に向けて活かそうとした戦後再建期の特質を示すものであった。しかし戦後の計画実現過程において、計画評価をめぐる意見の分裂や地方レベルにおける政治的・経済的な問題なども浮上し、現実面においては「民主的」変革の限界も浮かび上がった。研究成果としては、2010年度に英国ウェストミンスター大学(ロンドン)での国際学会にて本研究の扱う都市計画家の民主的計画構想について発表し、現地歴史研究者から有益な知見とアドバイスを頂いた。そこでの議論を踏まえ、学術論文を2本公刊した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①本内直樹「第二次世界大戦期イングランド北東部ミドルズバラ市の都市・住宅再建問題に関する住民意識調査の実態—『ミドルズバラ市の戦時社会調査』の資料から—」

『中部大学人文学部研究論集』第27号
(2012年1月) 57-76頁。

②本内直樹「第二次世界大戦期イングランド北東部の都市労働者・主婦層の居住環境と友人・隣人関係—『ミドルズバラ市の戦時社会調査』の資料から—」『国際比較研究』vol.7(査読有)(国際比較研究会)(2011年4月) 3-34頁。

[学会発表] (計3件)

①中部大学大学院国際人間学研究科専攻連

携シンポジウム「世界のまちづくり」

個別報告：本内直樹「イギリスの戦後復興
ヴィジョンと都市計画—歴史研究の視点
から—」2011年10月5日、於、中部大学

②Naoki Motouchi, 'Max Lock and democratic
planning in Bedford, 1945-1960', Blitz and its
Legacy Conference, 3 September 2010,
University of Westminster, London, UK.

③本内直樹「戦後イギリスの都市計画に関す
る研究成果と今後の課題」第1回都市と住
宅研究会、学習院大学人文科学研究所、
2010年6月6日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

本内 直樹 (MOTOUCHI NAOKI)
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：10454365

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし